

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



あなたはどんな人ですか

利用者さんの声を聴くということは何...?

【2011年 秋号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇自閉症について～声を聴くということ～	P 4	◇ケアホーム便り・ヘルパー便り	P 5
◇展示販売会報告	P 6	◇決算報告	P 7
◇後援会	P 8		

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コープ野村 6-109
 毎月15日発行 購読料1部 50円

「やまびこ会」と「風の谷」との連携

社会福祉法人「風の谷」は、相模原やまびこ会を母体として平成9年に法人認可を取得し、「やまびこ工房」が自閉症者通所更生施設として平成10年に開所しました。その後、自閉症者の、地域での生活をより豊かにするための事業として、ケアホーム「ナウシカ」の運営、ガイドヘルプ事業、相談支援事業、短期入所事業等を実施してきました。

「やまびこ工房」の利用者は、やまびこ会会員の子どもの多数を占めています。また、「風の谷」設立の経緯もあり、「やまびこ会」と「やまびこ工房」は、事業を実施する上で相互に協力しています。一例を挙げれば、「ほかほかふれあいフェスタ」や「やまびこ工房地域交流バザー」でのバザー品の提供・融通、やまびこ会の「作品展」会場での、やまびこ工房の手芸品販売、やまびこ会会報の発送補助業務の「やまびこ工房」への委託、おやじの会での職員・父親の交流、市への要望書提出に際しての意見交換等々です。今後とも、「やまびこ会」としても、「やまびこ工房」と協力し合い、相互の事業を、より充実させて行くことが重要であると考えています。

やまびこ会には、毎年、年齢の若い新規入会者もありますが、会員の高齢化も進んでいます。これに伴い、会員子弟の生活の場として、グループホーム、ケアホームへの需要が強まることが予想されます。また、親亡き後の事を考えれば、成年後見制度の利用も検討せざるを得なくなります。また、最近の傾向として、高機能自閉症、アスペルガー症候群等の発達障害者が増加しており、「やまびこ会」も「やまびこ工房」としても、従来とは異なる視点での対応が求められています。このように、「やまびこ会」会員の課題が、「やまびこ工房」の相談支援事業の増加、グループホーム、ケアホームの増設要望へとつながって行くのではないのでしょうか。社会福祉法人「風の谷」としては、これらの要望に応じて、事業として実施するためには、職員の採用、事業の採算性も考慮しなければならず、簡単ではありませんが、要望を実現するために、今後とも種々ご協力頂きたいと思っております。

相模原やまびこ会 会長 鈴木 秀美

今回巻頭文を寄稿していただいた鈴木秀美氏は、当法人の評議員をしていただいております。ご子息はやまびこ工房を利用しています。また、『相模原市自閉症児者親の会(相模原やまびこ会)』の会長をされるなど、地域でご活躍されている大変頼もしい存在です。

施設長 中島博幸

自閉症児・者作品展のお知らせ



「ミロより優しく、ゴッホより激しく、ピカソより純真！」

<日時> 11月25日(金)・26日(土)・27日(日)

(13:00~19:00) (10:00~19:00) (10:00~15:00)

<場所> おださがプラザ ラクアルオダサガ4F

<主催> 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

皆さま、是非お越しください！



「相模原自閉症支援センター便り」

“発達凸凹”最近同僚から薦められた杉山登志郎先生の著書「発達障害のいま」にあった言葉です。発達凸凹とは、現時点でも解明できていない遺伝等様々な要因で引き起こされる、脳の器質的な特徴によって、発達の状態に凸凹のある人たちのことを指しているようです。そして“発達凸凹≠発達障害”であるが、かなりの割合で障害という状況に移行してしまうことがある。ただし、適応障害を起こしていない発達凸凹は、マイナスに限ることではなくて、特異な才能を伸ばせば、社会に大きく貢献できる人材に成り得るし、凸凹自体が障害ではない。そして、適応障害につながる大きな憎悪因子にトラウマが大きく関与している。そこに、自閉症圏の人たちの場合は認知、感覚特性や独特な情報処理の方法等が重なり、虐待されていなくても、虐待されているのと同じような辛さを経験して、掛け算的に障害へと進んでいく。といった内容でした。本当は、親子関係、虐待、その後の治療、トラウマ処理等、もっとも深い内容だったのですが、この紙面で要約して説明できるような能力は私には残念ながらありませんので、みなさんに読んでいただきたいのですが、兎にも角にも“発達凸凹≠発達障害”だということが書かれていて、そこに私は惹かれました。

相模原自閉症支援センターでは、この春から相模原市の「発達障害者の日中活動支援プログラム研究事業」の委託を受け、10月より利用者の受け入れを開始いたしました。細々とですが、現場の職員に助けをもらいながら、ようやく始まったという感じです。委託の背景には、相模原市における発達障害、相談支援体制を語っていく上で、障害児教育、障害福祉サービスに乗りにくく、そのまま成人した人たちが多く状態を無視できない状況になっていることがあります。これは、相模原市だけに特別な話ではありませんが、発達凸凹から発達障害へ移ってしまった人が目立つ社会になっているのだと思います。さらに、先述の著書ではようやく凹には目が向くようになってきたが、凸への教育的支援はまだまだとありました。福祉の世界に長くいると、どうしても障害の部分に目が向きがちですが、才能、強みに目を向けなければいけないし、社会が障害を作り出しているのかも、と胸が痛い思いで読みました。この研究事業を通じて、凸凹があるのは当たり前で、一人一人が自信と責任を持って生活できるような、社会が多様性を受け入れていくための土台を作っていけたらと思います。

今年も暑い夏でしたが、ウイリング横浜でも例年のように熱い、「第14回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」が5日間の日程で開催され、やまびこ工房からも職員を派遣することが出来ました。毎回25名前後の方が受講しているので、すでに350名ほどの方が受講したことになり、私もその中の1人という事になります。通称トレセミと呼ばれているこのセミナーは、神奈川県自閉症児・者親の会連合会が主催して下さっています。そして、自閉症研究者とかではなくて、本物の実践家から実践の中で直接学べる内容で、今の自分の自閉症理解、発想の基礎になっています。ではなぜ、親の会が支援者を育てなければと思ったのか？そしてトレセミを継続して下さっているのか？考えただけで、親の会の皆さんの熱く、やるせない想いが伝わってきそうですが、しかしそれだけ、現場の支援者に満足できてなくて、今なおその不満は強いということの現われなのだと思います。そんな想いにどのくらい私たちは応えることが出来るのでしょうか？ある親御さんからも受講者数はずいぶん増えたけど、それぞれが現場でどのくらい裾野を広げてくれているのだろう？と話してくれました。最近になってようやくですが、養護学校の先生やほかの施設の職員の方と一緒にアイデアを出し合う機会に呼んでいただけるようになりました。トレセミで培った、評価と構造化された支援を基盤に、自閉症児者彼らの持つ凸凹の特徴や発想力を伝え積極的に引っ張って行けるような存在になりたいと思います。結局は一人一人の自閉症児者本人たちにつなげてもらっているのですが、トレセミを継続的に支えてくださっている大きな愛への少しながらも恩返しになっていければと思います。

相模原自閉症支援センター 西村

自閉症について ～声を聴くということ～

前号で私たちがご本人の「声」を聴くということをテーマに取り組みを行っていることを紹介させていただきました。今号では、やまびこ工房で実際に取り組んでみたことをご報告したいと思います。

元々、個別支援計画を作成する中で利用者さんのニーズが本当に聴き出せているのか？という疑問が段々深くなっていき、私たちは本当にご本人のための支援を組み立てられているのか？と悩んでしまいました。これまでは日常の観察から得意なこと、苦手なこと、好きなこと、嫌いなことについて推測しながら支援の組み立てを行ない、その中でご本人の意思決定の場面をできるだけ増やそうとの努力も行ってきました。

例えばAさんの場合、毎週、ヘルパーとのカラオケを楽しみにされています。現在、やまびこ工房周辺にある3つのお店から行き先を選んでもらっています。そして当日は、ヘルパーと行き先を示した表を作業席の所定の位置に掲示して見通しをもちながら日中活動の励みにもなるように設定を行なっています。今後も出来るだけその人に合った形で自己選択が出来る機会を増やしていきたいと考えています。



これまで、こういった限定された場面でのご本人への確認はありましたが、どんな生活を望まれているのか？今の生活の中で足りないと感じているものは何か？という支援計画のもととなるニーズを利用者さん自身から聞き取ったことがありませんでした。そこで今回、「好きな事」「嫌いな事」を聞き取る場面を設定するということから始めてみることにしました。

Bさんの場合は、ご本人の使っていただいたことがない相談室に職員と二人きりの場面設定で予めスケジュール提示を行い、面談の形式で行ないました。口頭での質問に対しては回答が難しかったため、イラストや写真のカードを「好き」と「嫌い」に分類して頂きました。

まず「好き」「嫌い」の意味を伝えるのが難しい面がありましたが乗り物等、一部の内容については回答して頂くことができました。

また、アンケート用紙の形で提示した時には丁寧に書こうとされる様子が見られ、その場面では笑顔で楽しそうに取り組まれている様子でした。



Cさんの場合は、作業の合間の休憩時間に直接口頭で聞き取りを行いました。

これを行った職員は、普段、Aさんが発する語彙の種類や職員の確認に対する反応のされ方から、「質問の意味が伝わらないのではないか？」「会話の形は難しいのではないか？」と考え、更に「この取り組みで不安定になってしまうのでは？」と不安も感じていました。ところが実際に行ってみると準備していた質問項目では、とても足りないほどで全ての質問に的確に返答されていました。そこで、職員が少し選択肢を増やそうとすると、初めに言われた答えを強く言われてしまいました。質問の意味だけでなく、もう少し変わった答えもあるのではないかと勝手な希望を抱いた職員の意図も見透かされたようでした。

「とにかくやってみよう」と設定した取り組みでしたが、実際に体験してみて、いかに私たちが障害の機能的部分にばかり目が行って「利用者さんが何を必要としているのか？」というご本人のニーズについて目を向けてこなかったことに気づかされ、一種の衝撃を受けました。

まだまだ試みの段階で、これからという取り組みですが、これからもご本人の意思を確認する場面は大切にしていきたいと思っています。今回の取り組みで、私たちが支援計画や日々の設定のための情報収集や評価に偏りがちであったことを気付かされました。今後の支援の中では、一人一人の利用者さんが、どんな人なのか全体像を知るといふ原点に立ち返って、その利用者さんが一人の生活者として希望されるものを実現する支援を行っていききたいと思っています。

(上条、野田)

ヘルパー便り 其の貳

秋も深まり、外出しやすくなりました。利用者さんはヘルパーとこんなところに出かけています。ある土日に出かけたところです。

ロテンガーデン（銭湯） やまとの湯 北の丘センタープール
 シダックス（カラオケ） ジョナサン くら寿司 電車とバスの博物館
 マッサージ 昭和記念公園 サンシャインシティー マリントワー
 中華街 相模原パークレーン マリンスパ熱海 生命の星・地球博物館

休日は電車で2～3時間かけて遠出することも多いです。電車から見える景色を楽しまれたり、景色と言っても、自然の景色は楽しめる方は少なく、企業や広告の看板を見たり、電車から見える他の電車や駅を見ていたり、私たちが見落としがちなことをしっかり見ている、実際はとっても深いのかも知れません。景色が動いて行くこと、揺れ具合、音などそのようなこともまた心地よさそうにされている方もいます。

自閉症らしい楽しみ方が如実に表れるのはカラオケかも知れません。楽しみ方がそれぞれなのです。歌を歌うことを楽しめる方、歌は歌わずジュークボックスのように曲をかけることを楽しめる方、映像を楽しめる方、歌本を楽しめる方、テレビ番組の主題歌やエンディングの曲を調べている方、食事を楽しめる方などなど、個々に楽しむ部分が違います。カラオケって懐が深いです。

プールは秋からシーズンです。夏の暑い日は混んでいて、思うように水と触れ合うことができなかったのですが、空き始めるこれから気分良く楽しめます。寒くなる時期ではありますが、ジャグジーのあるプールが多く、ポカポカに温まってから出ることができます。

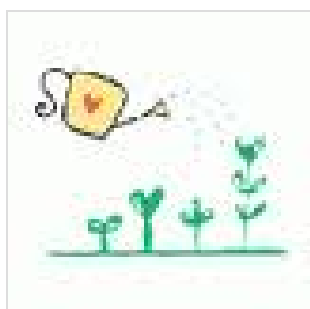
歩くことやハイキングを楽しまれる方も多いです。とにかく外に出たいのと体を動かし続けることがストレス発散につながっているように思います。シンプルに楽しんでいます。（薬師丸）

ケアホームナウシカ便り 其の貳

ケアホームナウシカでは5人の利用者さんが一つ屋根の下でそれぞれの生活スタイルで共同生活をしています。そこで今回から数回に渡って、実際の利用者さんの生活をクローズアップして紹介したいと思います。

記念すべきトップバッターの新之助さん（仮名）は、縁の下の力持ちで、共同生活の色々な部分を手伝ってくれる方です。例えば、ケアホームナウシカではプランターにミニトマトやチューリップなどの季節に合わせた植物を栽培しています。このプランターに新之助さんは朝夕の2回欠かさずに水をあげてくれています。（プランターで出来上がった野菜は実際に皆さんの食卓に出ています。）また、ケアホームナウシカに住む利用者さん全員の洗濯物を畳んでくれています。

このように5人での共同生活を手伝う働き者の新之助さんは、素敵な趣味を持っていて、お風呂上りに塗り絵や筆ペンを用いて書き物を行っています。塗り終わった完成品を誇らしげに職員に見せては、素敵な笑顔を振りまいています。（田辺）



アリオ橋本で販売してきました！



皆さん行かれたことはありますか？

昨年橋本駅にできた大型ショッピングモール「アリオ橋本」。

まだまだ夏真っ盛りだった8月22日と23日にその「アリオ橋本」で、相模原市とイトーヨーカ堂の連携により、障害者による自主製品の販売に関する事業として自主製作品の販売会が行われました。

今回は日ごろ自主制作品を作ってくださっている利用者さんにも参加していただき、なんとやまびこ工房だけが実演販売をしてきました！主婦の皆さんはスーパー等でご経験があることとも思います…やはり実演販売と言うのは効果絶大！

マットや編み物、刺繍製作をせっせと進めていく利用者さんに、お客様は「こうやって作っているのね～！」「このお兄ちゃんすごいね～！」「こんなこと出来るんですね！」と興味津々なご様子で、大いに購買のきっかけとなりました。

もちろん、実演販売をしていない製品についても、色とりどりの作品を手にとりくださる方は多く、その中でも一番人気はペットボトルカバー！その場で職員が仕上げ（取っ手をつけてほしいとのご要望があり…）をしても追いつかないほどの人気でした。

後日、主催者の方からは「やまびこ工房はとても優秀な売り上げだった」とのご報告をいただきました。

私たち職員の販売経験や発想力の不足さから私たち職員の課題は多く残りましたが、普段と大幅に異なる環境での作業にも関わらず、しっかり実演（作業）をしてくれた利用者さん。

利用者さん自身の経験としてはもちろんですが、私たち職員自身も利用者さんの新しい一面を垣間見ることができ、大変有意義な経験となりました。

販売経験が少ないからこそ、今後も様々な形で販売の場を持ち、販売方法の習得そしてお客様のニーズに合った製品の開発等にも努めていきたいと思っております。

日々「誠実に」「真面目に」「まっすぐに」製品を作ってください利用者さんのその姿勢に答えるために…。

(湯本)



ストッキング・タイツ大募集中！！

「ストピカ」作製に使用するストッキングとタイツが非常に不足しております。穴が開いてしまったり、古くなって使わなくなったストッキングやタイツがありましたら、ぜひやまびこ工房までお願い致します！

社会福祉法人風の谷 やまびこ工房

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 TEL042-760-1033

担当：湯本まで

社会福祉法人風の谷 平成22年度決算状況報告

(単位：千円)

(1) 資金収支計算書(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

区分	収入額	支出額	資金収支差額
経常活動による収支	238,003	185,048	52,955
施設整備等による収支	11,600	11,378	222
財務活動による収支	21,980	36,180	-14,200
合計	271,583	232,606	38,977

※前期末支払資金残高 197,187

(2) 事業活動資金収支計算書(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減
事業活動収支差額	55,242	59,931	-4,689
事業活動外収支差額	-1,326	261	-1,587
特別収支差額	0	-24,090	-24,090
当期活動収支差額	53,915	36,103	17,812
前期末繰越活動収支差額	205,802	156,698	49,104
当期末繰越活動収支差額	259,717	192,802	66,915
次期繰越活動収支差額	259,717	205,802	53,915

(3) 貸借対照表(平成23年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度	前年度	増減	勘定科目	当年度	前年度	増減
流動資産	217,398	178,495	38,902	流動負債	20,210	8,685	11,525
固定資産	468,669	453,339	15,330	固定負債	188,290	192,119	-3,829
				基本金	55,912	55,912	0
				国庫補助金等特別積立金	104,337	111,716	-7,379
				その他の積立金	57,600	57,600	0
				次期繰越活動収支差額	259,717	205,802	53,915
資産の部合計	686,067	631,834	54,233	負債純資産合計	686,067	631,834	54,233

(4) 財産目録(平成23年3月31日現在)

区 分	金 額
資産の部	686,067
負債の部	208,500
差引純資産合計	477,567

後援会のページ

風の谷後援会の皆様・やまびこ工房家族会の皆様・職員の皆様、健やかな毎日をお過ごしと拝察いたします。秋本番となりました。

3.11 東日本大震災の影響で、8月の納涼会(相模原納涼花火大会を工房屋上にて見学)が残念ながら取りやめになりました。毎年楽しみに参加している子ども達には大変ショックだったと思います。

また、今年も去年と同じく猛暑日の連続でしたし、更に追い討ちをかけるように電力不足で節電を強いられ大変な夏でした。

今後は、ブルーベリージャム作り・資源回収・後援会会員の更新等の行事が予定されております。皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

さて、皆さんご存知の通りですが、障害福祉の世界も順次大きく変わってきました。支援費制度→自立支援法に、自民党→民主党に政権が変わって自立支援法が廃案方向となり、打ち出されたのが障害者総合福祉法とやらで整備うんぬん、つなぎ法案が交付され、これから民主党提案の新制度と思いきや、東日本大震災・原発事故。

さてさて親としてこれからどうなることやら注目必須です。

風の谷後援会会長 佐藤 辰男



【更新・個人】平成23年7月9日～平成23年9月30日(敬称略)

(相模原市内)

岩崎圭子 内田まゆみ 川勝登美子 小松真弓 佐藤清一 篠崎繁雄 島森隆夫 清水徹 永山明彦 芳賀道子
萩原春夫 萩原莉恵子 堀田脩司 松岡清市 松原麻子 百田紀久男 柳井晶子 山口彰一 (有)伸和トラスト

(その他の地域)

上野悟(川崎市) 成瀬富子(平塚市) 中島敏晴(札幌市) 和田まり子 日野朝子 日野資純(静岡市)
村岡嘉紀(大和市) 藤野孝夫 内田照雄 新井靖数(厚木市) 岩崎秀二(小平市) 合津紀子(上市市)
石渡和実(横浜市) 竹花三枝 山本昭子(藤沢市) 上城洋一 中塚正彦(座間市) 下田浄(所沢市)
守屋恵美子(堺市) 塚本寿子(福井県)

【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 (有)伸和トラスト ボランティアサークルきずな 依知の会
ワーカーズコープ・キュービック 他大勢のみなさまありがとうございました。

<お詫びと訂正>

前回の2011年夏号において誤字や未掲載等の不備があり、本号にて不備がありました方のお名前を改めて訂正・掲載させていただきます。

この度の非礼、心よりお詫び申し上げます。まことに申し訳ございませんでした。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL: 042-760-1033 FAX: 042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345